



戸切白谷区で民生委員の小早川壽子さん(写真左)たちを中心に行われているふれあいサロン

特集

こんにちは！民生委員です

普段の暮らしの中で、困りごとや心配ごとを抱え、誰かに相談したいと思うことはありませんか。そんなときに身近な相談相手となるのが、民生委員・児童委員です。皆さんの近くにいながら、なかなか知る機会が少ない民生委員・児童委員の活動を紹介します。

問い合わせ 福祉課へ

**地域の身近な相談相手
「民生委員・児童委員」**

急速に進んでいる町の高齢化。平成29年4月1日現在の高齢化率は31・5パーセントで、国や県の平均を大きく上回っています。また、一人で暮らす高齢者や核家族の割合も年々増えています。

地域には、子育てや介護の悩みを抱えている人や高齢者、障害のある人などさまざまな人が暮らしています。中には、地域とのつながりがほとんどなく、悩みを誰にも相談できない人もいます。こうした人たちの孤立を防ぎ、必要な支援を受けられるように活動するのが、民生委員・児童委員（以下「民生委員」という）です。民生委員は、地域住民の身近な相談相手となり、支援を必要とする人と行政や関係機関をつなぐパイプ役を務めています。

**地域の人たちを
日ごろから見守っている**

各自治区に1〜5人、計68人の民生委員が所属する岡垣町民生委員児童委員協議会。それぞれの民生委員が、担当地区に住む高齢者や障害のある人の見守り活動、子どもた

民生委員・児童委員と地域 が協力することが大切です



岡垣町民生委員児童委員協議会
会長 平竹裕司さん

岡垣町民生委員児童委員協議会では、一人暮らしの高齢者など日常生活に不安を抱えている人を定期的に訪問したり、65才以上の人の緊急連絡先を把握し、もしものときに備えたりと、地域の皆さんが安心して暮らせるよう活動しています。

役割は、担当地区に住む人の悩みや困りごとを聞き、必要に応じて関係機関につなぐことです。しかし、民生委員だけですべての福祉ニーズに対応することはできません。自治区をはじめとした地域と連携・協力しながら、一人ひとりの状況にあわせた支援を行う必要があります。

私は民生委員を務める前、地域のことを何も知りませんでしたが、これまでの活動で気づいたことがあります。それは、地域には隣近所の事情に詳しい人が必ずいるということです。こうした人たちの力も借りながら、民生委員としての役割を果たしていきたいです。これからも安心できる地域を目指して、活動の輪を広げていきたいと思っています。



【写真上】岡垣町民生委員児童委員協議会の定例会。会議後の研修を通して、地域の人たちを支えるためのさまざまな知識を身につけている

【写真左】同じ悩みや課題を抱える仲間と、互いにアドバイスなどを行っている

ちへの声掛けなどを行っています。また、生活上の悩みや妊娠・子育てへの不安など、幅広い年代のさまざまな相談にも対応。必要に応じて相談者と行政・関係機関の間に入り、相談者が十分な支援を受けられるよう調整しています。

定例会は「学び」の場 常に情報を共有

民生委員は、必ずしも専門知識を持っているわけではありません。また、任期は3年間で、本人の意思があれば継続して務めることができます。ため、経験豊富な民生委員もいれば、新任の民生委員もいます。そこで、すべての委員が、何をすれば良いのかと不安な思いを抱えることなく、知識と自信を持って活動できるように、月1回、町内の民生委員が集まる定例会を開いています。

定例会では、福祉の制度やサービスについて研修を受けるなど、年代や状況が異なる人たちのあらゆる相談に対応する知識を身につけています。

信頼の中にある 3人の温かい交流



体の調子を伺い、適切なアドバイスを行う
民生委員の藤山さん

「会える楽しみ」が
お互いをつなぐ

「こんにちは。民生委員の藤山です！」

「いらっしやい。来るのを待ったよ！」

明るく元気な第一声を発するのは、東山田区の民生委員を務める藤山千秋さん。今日の訪問相手は、同区の松田研一さん(83)・アヤ子さん(82)夫妻です。

藤山さんは、昨年12月に委嘱されたばかりの新任委員。毎日のあいさつなどから、ようやく地域の人たちに民生委員として顔を覚えてもらい、

それぞれの家庭を笑顔で訪問しています。

小さな一言も
しっかりとキャッチ

「体調は変わりないですか」という問いに「ゲートボールを毎日楽しんでるから元気だよ」と笑顔で答える松田さん夫妻。毎朝二人そろって、趣味のゲートボールをするために同区のグラウンドに向かいます。特にアヤさんは、ゲートボール岡垣協会の女子選抜チーム代表として、昨年6月に東京都で行われた全国選抜ゲートボール大会に出場したほどの腕前の持ち主です。さらにアヤさんは、朝一番の体操を欠かさず続けていることも報告します。

藤山さんは、こうした何気ない会話の中の小さな一言も聞き逃しません。「ゲートボールと体操が健康の秘けつなんですね。毎日の運動習慣は体に良いですが、朝起きた直後は筋肉が硬直しているの、体操するときには気をつけてくださいね」と気になった点をしっかりとアドバイスします。

悩みを一緒に解決します

元気な様子を見せる松田さん



最近のできごとを話す松田さん夫妻

ん夫妻に「なにか困っていることはありませんか」と問いかける藤山さん。

「今は大丈夫だけど、これから車の運転ができなくなる」と生活が不便になるね」と心配そうな研一さんに「免許を自主返納すると、町からバスの回数券などをもらえる制度があるから、返納しようと思っただけは、いつでも相談してくださいね」と寄り添います。

松田さん夫妻は「民生委員

は自分が住んでいる地域の人のので、とても話しやすいですね。遠くの親戚より近くの民生委員が頼りになります」と話します。

「日ごろから声を掛け、なんでも話してもらえん関係を築いていきたいです」と今後の活動の意気込みを語る藤山さん。これから多くの人たちの心に寄り添い、それぞれの暮らしに安心を届けていくでしょう。

子どもたちも伸び伸びと暮らせるように

主任児童委員は、育児のことやいじめ・不登校、児童虐待などの相談を受けています。支援の対象となるのは18歳までの子どもと妊産婦です。

よくある相談は、学校にあまり馴染めていない児童のことです。学校から相談を受け、地域の民生委員と一緒に保護者と学校をつなぎ、児童の様子を話し合う手助けを行っています。反対に、保護者から学校と良好な関係でないと相談を受けることもあります。直接言いにくいこともあるため、間に入って関係を取り持っています。

日常的な主な取り組みは、学校訪問です。先生方が気にしている児童がいれば、その児童を特に注意して見るようにしています。このほか、学校行事などに呼ばれることも多くあります。こうしたときに、町の子どもたちが元気に明るく過ごしている姿を見ると安心します。

子どもたちの明るい笑顔を守るために、悩んだときは気軽に相談してもらえる存在でありたいです。

「
子育ての悩みを
解決できるよう支援します
」



岡垣町民生委員児童委員協議会
主任児童委員部会
部会長 筒井信秋さん



100年の歩み

1917年（大正6年）に岡山県で「済世顧問制度」として誕生した民生委員制度。今年で創設100周年を迎えます。

児童の味方 主任児童委員制度

民生委員の中でも、児童や子育てに関する支援を専門に担当するのが主任児童委員です。児童虐待などが社会問題となり始めた平成6年に、問題の早期発見やその前の不安や悩みを解消するために設けられました。

町では、3人の主任児童委員が町内全域で活動しています。地域の民生委員と協力しながら、行政や児童相談所などと連携し、問題の解決に向けて取り組んでいます。また、年4回、郡内4町の主任児童委員が集まり、それぞれの事

相談しやすい 関係を目指して

例をもとに知識を深める研修会を行っています。

地域の輪を広げよう

少子高齢化や一人暮らし高齢者の増加、個人の価値観や生活スタイルの多様化などで、地域が直面する福祉課題は深刻化しています。一人ひとりの福祉ニーズの多様化や複雑な問題に、民生委員だけで対応することは難しい状況です。

安心して暮らせる地域づくりを進めていくために、まずは隣近所に目を向けましょう。そして、互いに声を掛け合い、助け合いの輪を広げていきましょう。